

患者さんが一番望む「生き方」を支援する

現在、日本人の2人に1人が、がんにかかり、3人に1人ががんによって亡くなる時代と言われています。国民の多くが、がんについて強い関心を持っており、新聞やテレビでは、毎日のようにがんについての情報が発信されています。しかし、そのような現代においても、「緩和ケア＝終末期医療」というイメージを持っている方が多いのではないのでしょうか。

「がんと診断されたときから、緩和ケアは始まります。緩和ケア認定看護師の仕事は、患者さんの痛みや吐き気などの身体の辛さをケアすることだけではありません。告知による動揺。これから始まる治療や日常生活への不安など、がんと診断されたことによって患者さんやご家族が抱える様々な問題について支援しています。」(松岡看護師)

本年3月から本院に赴任した松岡看護師。以前は緩和ケア病棟のある病院で、15年間勤務していました。管理職を経験し、人を育てるという役割をまかされるようにな

緩和ケア認定看護師

松岡 由江(まつおか よしえ)
看護師



ったこと。患者さんやご家族の緩和ケアに対する認識の変化。また、より良いケアを提供できたらという想いから、緩和ケア認定看護師の資格を取得しました。緩和ケア認定看護師としてスキルアップしたことにより、患者さんの症状だけに注意するのではなく、患者さんという人そのものの。患者さんの日常にも意識を向けることが出来るようになったそうです。



「今後は、がんの告知を受けた患者さんが、こういったところで治療を受けたいのか。誰に看てもらい、どのように過ごしていきたいのか。緩和ケア病棟で培った経験を活かして、患者さんやご家族に情報を発信していきたいと思っています。大学病院では、患者さんがそういったことをゆっくり考えることは難しいかもしれませんが、患者さんやご家族の意思決定を大切に

にして、望まれる治療を受けて、望まれるところで療養を受けられるように支援していけたらと考えています。」(松岡看護師)

患者の皆様へ

家庭でできる対策もたくさん!! 「食中毒について」

「食中毒」と聞くと、仕出し弁当や飲食店を思い浮かべるかもしれませんが、自宅での食事でも発生します。食中毒は、食べ物の少量の細菌やウイルスが、温度や湿度等の条件が揃うことによって増殖し、下痢や嘔吐・発熱などの症状を引き起こします。これを防ぐためには、自宅でも調理前の手洗い・調理器具の洗浄・食品の適切な加熱と保管が重要です。また食中毒による吐物や便は症状が広がる一因になりますので、手洗いはしっかり行いましょう。対策をきちんととって、安心して美味しい食事をいただきましょう。

あらゆる機器に精通する、医療のエンジニア

臨床工学技士

北岡 豊永(きたおか あつのり)
技士



臨床工学技士の主な仕事は、生命維持管理装置の操作及び保守点検です。「生命維持管理装置」という言葉を耳にしたことがある人は少ないかもしれません。人工呼吸器や人工心肺装置など、人間が生きていくために必要とする呼吸や血液の循環などの働きを代行したり、補助したりする装置をいいます。

仕事のひとつとして、病院内での補助循環装置の操作やメンテナンスがあります。補助循環装置とは、文字通り患者さんの心臓と肺の機能を肩代わりしている装置です。万が一、トラブルが発生し、補助循環装置がストップしてしまうと、患者さんの命にかかわる重大な事故に繋がります。患者さんの生命に直結する高度管理医療機器であるため、徹底したメンテナンスと、高い専門知識に基づいた操作が求められます。「補助循環装置の操作は、やはりプレッシャーを感じます。しかし、補助循環装置が必要なほど重篤な患者さんが回復し、装置を外すことが可能となったときや



元気な姿を見たときにやりがいを感じます。」(北岡技士)
勤務経験11年のベテランである北岡技士。あらゆる現場に精通するため、本院に赴任するまでは、香川県や高知県の病院で、多くの症例を経験し、体外循環技術認定士や透析技術認定士、医療機器情報コミュニケーター(MDIC)などの資格を取得しています。

「自分の理想としては、あらゆる現場のバックアップに回ることが出来るジェネラリストタイプのMEになることです。そのためには、さらに広い知識と技術を身につけたいですね。また、南海トラフなどの災害時に、臨床工学技士としてこういった行動をとることができるのか。特に電気がストップするとあらゆる装置が停止してしまいます。電気を含めたライフラインの確保を臨床工学技士の立場から検討しています。絶対止められない装置を扱っている以上、その根本となる電気や水道を確保するための取り組みを進めたいですね。」(北岡技士)